



## 森の豆知識（カラマツ）

カラマツは言うまでもなく長野県の代表的な造林木です。県内人工林の 55%を占めており、野辺山周辺では人工林といえばカラマツ林と言っていいでしょう。

秋の黄葉や春の新緑はなかなか味のある美しさです。しかし木材としては割れやねじれが生じやすいという欠点があります。昔は腐りにくいことを活かして杭材や電柱として重宝されましたが、その需要が激減してから、売れない木として放置された時期もありました。

その後、長野県や民間企業などが乾燥や集成材の技術開発に取り組み、今では建築材としてスギと遜色ない価格で流通するまでになっています。

カラマツは針葉樹としては強度があります。ロシアからの輸入カラマツが減っていることもあって、構造用合板としての需要がかなりあるようです。その他、集

成材にして非常に大きな建築物を作ることができます。長野県では、松本市にあるやまびこドーム（1993 年、面積 10,000m<sup>2</sup>）や長野市にある長野オリンピック記念アリーナ（1996 年、面積 76,100m<sup>2</sup>）がよく知られています。もっと身近なところでは、川上村立川上中学校の校舎も、地元のカラマツをふんだんに使った開放感のある見事な建物です（2008 年完成）。

材から林に目を戻してみると、カラマツ林は林内が明るいので低木や下層植生がよく茂ります。「人工林では生物多様性が低い」というのが世の中の常識ですが、私が同じ樹齢と標高の林で鳥を調べたところでは、種数も個体数も、カラマツ林ではスギ・ヒノキ林よりもずっと多いのはもちろん、天然林よりもむしろ多いこともわかりました。

カラマツは中部山岳地帯が原産ですから、この地域の林業には欠かせない木であり続けるでしょう。（藤岡）



## 八ヶ岳 ちょっと寄り道

野辺山駅から 100m、八演管理棟から 1,200m ほど離れた野辺山高原ホテルの駐車場にちょこんと作られた可愛いカフェ。お店の名前には「テイクアウト」とありますが、パラソルとテーブルセットが設置されているので、その場でいただくことも可能。豊富なメニューはコーヒーとホットサンドで 500 円くらいから選ぶことができます。どれもおいしそうなので目移りしてしまいそう。残念ながら冬の間は休業となってしまうので、公式 web ページ <http://cafe-country.com> の「お知らせ」で、お休みの日と営業時間などを確認してからお出かけすることをおすすめします。（森下）



Take out cafe カントリー

長野県南佐久郡南牧村大字野辺山 693 TEL 0267-98-2670  
10:00-16:30 不定休／冬季（11 月中旬頃 - 3 月下旬頃）休業

### ■ 次号の発行予定

次号は 10 月末の発行を予定しています。10 月 9 日のイベント報告や 11 月以降のイベント案内などを掲載します。会員からの投稿も歓迎します。10 月 24 日（月）までに事務局または藤岡まで原稿や写真などをお送りください。メール添付でも郵送でもけっこうです（郵送の場合、写真などは原則として返却しませんのでご了承ください）。

### ■ 編集後記

学生に戻った気分で動植物調査。張り切って草むらに侵入、戻ってから図鑑を凝視しての同定作業、翌日には腰痛・肩こり・眼精疲労のトリプルコンボです。

### ■ 表紙の写真と文

周囲を圧倒するかのようにはびえ立つ、イラモミの木。（2016/08/12 井波撮影）



八ヶ岳森の恵み通信会報 3 号をお届け致します。3 をひと区切りに駒を進めることができました。これも会員皆さまのご協力のおかげです。一歩また一歩と引き続きよろしくお願い致します。

さて、会報 1、2 号はともに草本でした。3 号目で木本の登場です。調査で川上演習林へと足を運びます。ここは一度伐採されたため存在そのものに圧倒される樹木はほとんどない林です。しかし、その中でも異彩な人一人で幹を抱えることができない木も数本存在します。そのひとつが写真のイラモミで、普段歩く道では拝むことができないところにあります。調査の目的はイラモミ集団内の球果でしたが、なっている株が見当たらず今回は残念でした。

SEP 2016

恵みの森の動植物調査

「森の恵み会に参加して」連載中

連絡先：事務局（八ヶ岳・川上演習林） 〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-4

Tel. 0267-98-2412, fax. 0267-98-2397

yatsugatake.megumi@gmail.com <http://www.nourin.tsukuba.ac.jp/~forest/yatsugatake/supporter/>



八ヶ岳森の恵み通信

筑波大学八ヶ岳・川上演習林サポーター組織「八ヶ岳森の恵み会」会報





## 恵みの森の動植物調査

### ■ 哺乳類調査グループ

8月7日(日) 10:10~の哺乳類・昆虫・植物調査に参加させて頂きました。前日に恵みの森に仕掛けてあった40箇所前後の罠(シャーマントラップおよびピットフォールトラップ)に何が入っているかの確認および罠の回収作業です。

3班のうち私は哺乳類班に入り、恵みの森の中を回りヒメネズミ1匹、アカネズミ4匹がシャーマントラップに掛かっているのを確認しました。各個体を計量したところ、ヒメネズミは22g、アカネズミは31~41g。残念ながらヒメネズミは死んでいたため、標本にするとのことでしたが、アカネズミは捕獲した場所の近くに各メンバーが一匹ずつリリースしました。小気味良くぴょんぴょんと跳ねながら森に帰って行きました。家族や仲間からははぐれたかも知れませんが、ごめんなさい! 私がリリースしたのは最大級の41g。よく見ると愛らしい眼をしています。



午後からは、前回7月17日に八ヶ岳演習林に仕掛けた自動カメラのデータ回収をしながら、電池交

換を行いました。何が撮影されているか写真のコマ毎にエクセルファイルに記録し、大学側に最終的なとりまとめのため提出致しました。

被写体としては、アナグマ・猫・シカ・ハクビシン・キツネそして人間。私たち関係者だけではなく、ランニングする人等、立ち入り禁止地区に無許可侵入者の様子も撮影されています。一度に3枚まで連写される設定ゆえ、動きが早いキツネやアナグマは、3枚中1~2枚に身体の一部だけちらっと写るケースが多いですが、シカは割と悠々と下草を食している様で、数頭が群れで来て、また茂みに帰るのでしょうか? また、昼夜問わず行動している様子も撮影写真から推定できます。

森林というのは、哺乳類だけでなく、昆虫や植物も含め多くの命を育んでいる大切な環境なんだな、と改めて実感しました。また今後、季節ごとの自然の変化を肌で感じ、恵みの会で色々と勉強する機会を作って頂き感謝しています。また色んな年代やお仕事の方達と知り合う機会もなかなか経験できないことです。これからもよろしくお願い致します。ありがとうございました。(似鳥亜紀彦)



## スタッフリレーコラム

永井真理 (筑波大学八ヶ岳・川上演習林事務職員)

「野辺山って何もない所だけど、子育てに必要なものは全部揃ってるよ」

主人のこの一言が決め手となり、転勤族だった私たちは野辺山に引っ越して来ました。今から10年ほど前の事、当時子供達3人は小学生でした。

実は野辺山は私の故郷です。マイナス25度にもなる冬の厳しさが嫌で、子供心に「人の住む所じゃない」と思っていました。外の世界が知りたくて、中学卒業と同時に野辺山を離れました。

改めてここで暮らしてみると、意外にも子供達から「今まで住んだ中で野辺山が一番いい!」との感想。下校途中にハシバミの実をポケットいっぱい採ったり、流星群の夜、庭に寝袋を並べて星を数えたり、友達とテントを張って一晩中はしゃいだり、薪ストーブでお芋やマシュマロを焼いたり、巨大ソリ滑りゲレンデを創作したり・・・子供達にとって、野辺山

ライフは街では味わえないものばかりでした。

又、この村は、子供達に文化的な体験をさせる事に熱心です。小澤征爾さんのサイトウキネンコンサートや、劇団四季のライオンキングを観に行ったり、貸し切りにした八ヶ岳音楽堂で、村の子供達と保護者全員を、山形由美さんのフルートコンサートに招待してもらったこともありました。個人ではなかなかできない素晴らしい体験です。

それから、ここでは中学3年生になると、教育委員会の主催でカナダ・バンクーバーに一週間のホームステイをします。これは大変貴重な体験でした。今大学生の長女は、この体験がベースになり現在バンクーバーに留学中です。子供が育つうえで、知ることよりもまず体験すること、感じる事が成長に不可欠であると、ここでの生活で実感しました。

幼かった子供達も成長し、私は昨年春より事務職員として八ヶ岳演習林でお世話になっています。ここに来てから動植物の名前や特性など、更に自然を深く理解する機会が増えました。野辺山の良さを、改めてボランティア会の皆さんとたくさん体験していきたいと願っています。どうぞよろしくお願いします。







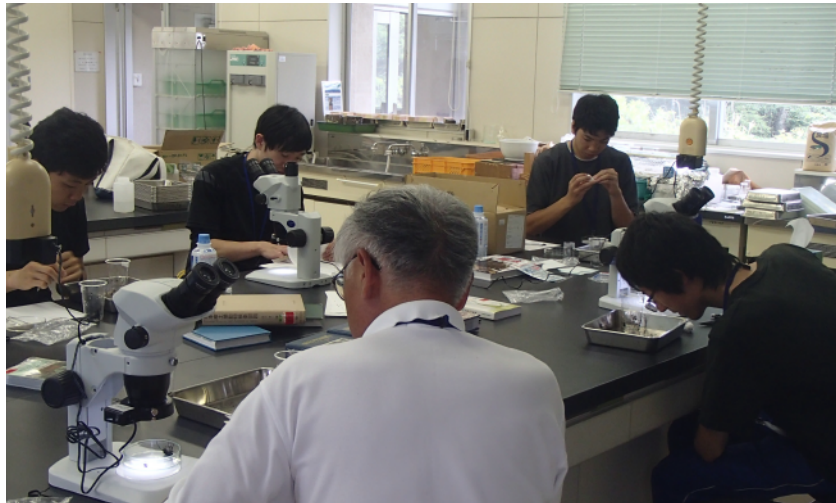
・図鑑で調べても、言葉がわからなかったり、花や果実など特徴的なものが確認できないと判断できなかったり、自信を持って同定できないものもあった。  
・今回の調査はリハーサルとのことで、調査方法を知って同定するくらいまでしかできなかったが、調査対象区画の環境状況等も含めて比較検討できるとおもしろそう。

植物について様々な知識を得ることができてよかったです。次回、より良い調査ができるよう、さらに植物の知識を身に着けて行きたいと思えた一日でした。（森泉周平）

## ■ 昆虫調査グループ

私は、大学で植物の勉強をしていた他、ゼミナールの活動で環境教育や動植物の調査などをしたことがあり大学を卒業してからも大学で学んだことを活かせる活動がないか探していた時に、「八ヶ岳森の恵み会」の情報を見つけ、活動内容もとても楽しそうな内容で、大学で学んだ知識も生かせそうだなと感じたので、会員として参加することに決めました。

仕事や家の都合などもあり、中々活動に参加できず先日の8月7日に行われた動植物調査が初参加の活動となりました。



私は、昆虫の調査のグループに入り、ピットフォールトラップの回収と捕獲した昆虫の同定作業を行いました。

ピットフォールトラップは、中性洗剤を入れたコップを地面に埋めて落とし穴のようにになっている手軽なトラップで、今回は中性洗剤の他にカルピスの中に入れた二種類のトラップが仕掛けてあり、想像していたよりも多くの昆虫が捕獲できていたので、驚きました。

捕獲した昆虫の中には、同じ虫も大量に捕獲できていたのですが、顕微鏡を使わないとよく見えないくらい小さな虫やバッター一匹でもとても種類が豊富なので、その後の同定作業がとても大変でした。

結局、同定作業は時間内に終わらず、同定が済んでいない昆虫はアルコールに漬けた液浸標本にしてその場を後にしました。

ぱっと見た印象では、オサムシの仲間のクロナガオサムシやアリなどが多く捕獲できていましたが、アリと一言と言っても何種類か捕獲できており、どんな種類のアリがどんな場所で捕獲できているのかを見るのも楽しいかもしれません。

同定作業はとても大変な作業でしたが、図鑑を見ていると自分の知らない虫を見つけることやこんな昆虫がいるのだと再認識することもあり、楽しい作業でもありました。

中々活動に参加できませんが、これからもできるだけ多くの活動に参加できるようにしたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

柳澤俊二  
長野県南佐久郡南牧村海ノ口在住

## ■ 次回のイベント予定

今回のイベントは 10 月 9 日、ミズナラのどんぐりを牛乳パックに埋め込んで苗木を作ります。前回のイベント同様に一般参加者も広く募集します。お子さん連れのご家族の方も大歓迎です。なお、イベント時期は 8 年に 1 度、大発生するキジャヤスデ（詳しくはキジャヤスデで検索）が作業中に観察できるかもしれません。こちらも楽しみです。

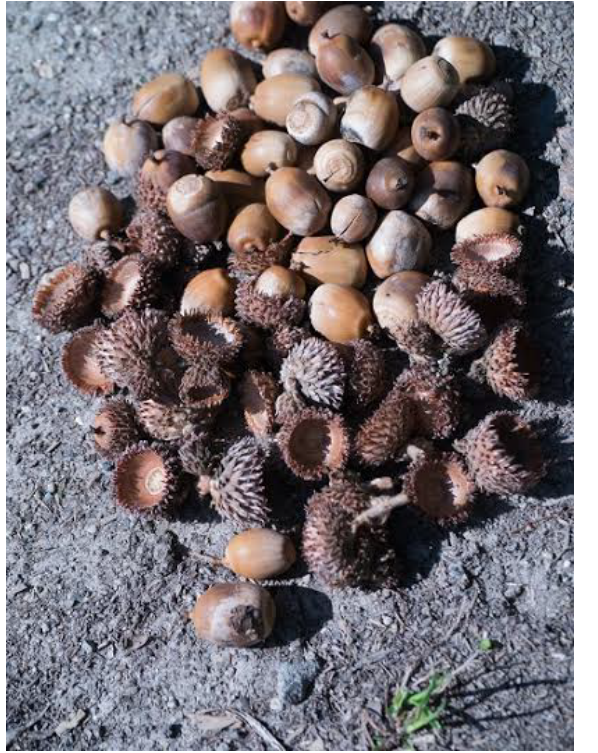
**開催日時：**10月9日（日）午前10：10 集合。終了は午後3時頃の予定

**場所：**筑波大学八ヶ岳・川上演習林管理棟（恵みの森構内）

**服装：**野外活動ができる服装で。土を触るので軍手と長靴がおすすめ。

**持ち物：**昼食・飲み物・雨具・タオル。できれば牛乳パック10個程度（1リットル用、上口面以外開いていないきれいなもの）。

**その他：**小雨決行。中止の際はホームページでお知らせします。



実生から育てることは皆さんに行なっていただく森づくりの最初の一步となります。どんぐりの種子は恵みの森から北西 2km あまりのところにある八ヶ岳演習林 (80ha) で集めてもらいます。森の分解者、キジャヤスデに遭遇するかもしれません。恵みの森に戻ってからは牛乳パックで鉢を作ってもらい、採ってきた種を埋めてもらいます。単純な作業ですので誰でも簡単にできます。2 年後、その牛乳パック苗を恵みの森で植樹してもらう、なんとも気長なことです。その間自分で植えたものを見守り管理していただけるとさらに情も湧いてくると思います。

## ■ 10月9日以降のイベント予定

10 月 14 日午後には大田区の中学 1 年生を対象に林業体験教室を開く予定です。内容はこれからですが、70 名以上の生徒さんが来訪されますので、お手伝いしてくださる方を歓迎いたします。面倒見のよいお子さん好きであれば、特に林業や木材について詳しい必要はありません。

12 月	薪割り体験
恵みの森で伐採された木を玉切りして、斧で割ります。実際に薪ストーブも使います。	

イベントの提案や希望も大歓迎です。採用されましたら、会員皆さまには随時お知らせいたします。



## 森の恵み会に参加して

成瀬 豊

野辺山在住（アルプスハイランド別荘地内）

別宅：東京都西東京市

藤岡会長から次号の自己紹介の白羽の矢が立ったと突然のメール!! と、言うことで、森の恵み会参加への道のりと自己紹介を少しばかり。

2012 年、野辺山に移住して来ました。株）ブリヂストンで車の運動とタイヤ技術の境界領域の足回り研究室を立ち上げ、車の動的中立性安定性を解析する手法などを開発し 120 数件の国際特許を含む発明をして 2008 年に定年退社、研究室から車の町医者へと言うことで、現役時代に知り合ったケルンにある車の高度整備事業の会社に招聘され身を寄せていました。3.11 の地震の折、東京で母の介護をしていていたワイフと母をドイツに連れて行き、状況が見通せるまでと 3 ヶ月ほど滞在したところ、歩けなかった母が 1km ほど歩くようになりました。家のあったところは周囲 35km ほどの森の中の小さな村でした。ドイツ人もこのような環境では元気で長寿と聞き、似た環境で母の残された時間を持つことにして帰国し、移住したわけです。

移住後、現役時代にできなかった地域社会で何かできることはと思っていたところ、恵みの森構想を見つけまして、さっそく藤岡先生を訪ね、計画の概要を伺い、ボランティアの計画があることを知りました。当時は認知症の進んだ母が骨折し、二人介助の介護生活でしたので時間の余裕がなかったのですが、2015 年春に 94 歳で母を送り、先生のお誘いもあって、腰を入れることにしました。

趣味は、登山と冬はスキー。現役時代には会社の山岳部を立ち上げ、尾根歩きから岩綾へ。八ヶ岳



も今は荒れてしまった南麓からのルートを歩きました。ワイフとザイルを結んだこともありましたが・・・今は、歩けるうちに再登頂をと夢見ています。スキーは準指導員を目指すも実現せず、今はゲレンデの日向ぼっこ組に入っています。0m ではセーリングクルーザーで子供達と伊豆の島へ帆走したり、艇のナビゲーションははまりましたが、今は 1400m に座礁です。最近、諏訪湖のヨットクラブに入り、風との対話を思い出しつつあります。

本業であった車は、機械式の旧世代では整備から高速ドライブ（アウトバーンやレーストラックになりますが）まで時間を忘れていました。今は、研究成果を活かして、素人レーシングチームの技術サポートで遊んでいます。その他、美味しいものは大好き。作るのも大好き。飲むのも好き。厳冬期の野辺山で森の恵みの薪の炎を眺めつつワインで四方山話しはいかがですか？ 暖を送ってくれる木の話。薪割りで出会った木の生き様は重い雪に枝を支えた幹の繊維。炎の色も違って見えます。

森の恵み会での出会いも恵みの一つだろうと思います。バーチャルではない自然とのお付き合い、それを取り巻く人との対話などなど、森でも趣味でも長くお付き合いくださいませ。

ドイツの森で知った木々との会話を思い出しつつ、将来につながる味わい深い森作りや森の情報発信などのお手伝いをしていけたらと思っています。



### ■ 植生調査グループ

植物調査グループでは、井波リーダー兼インストラクターの指示のもと、7名で調査を行いました。

1. 調査方法 調査は、方形枠（コドラード）を使った調査を行いました。
  - ・調査対象区画に約10mのロープを張り、そのラインに沿って1m四方の方形枠（コドラード）を地面に置く。
  - ・その枠内に生えている植物の種名を同定し、種ごとの被度をパーセント単位で記録。
  - ・被度とは、枠内でその植物が生えている面積割合のことで、いろいろな植物の葉が重なっていても、真上からみて一番上に出ている種の葉っぱの面積で評価。（今回は、葉っぱが重なって見えない下層の植物種も、被度 0%として種の同定を行った）
  - ・方形枠には 10cm刻みで黄色のテープが巻いてあり、それを目安に 10cm四方なら1%の被度というように評価。（全体の合計は 100%になり、100%未満の場合は地面が見えているということ）
  - ・植物の種名がわからない場合は、仮の種番号を付けてサンプルを採取し（サンプルは調べやすいように茎から採り、できれば花の咲いているものがよい）、ビニールテープに場所と種番号を書いて巻きつけた上で、乾燥しないようビニール袋に入れて持ち帰り図鑑で調べる。



- ・調査対象区画は、恵みの森内のズミの小道の脇と、南門近くの歩道の脇の 2ヶ所。2 班に分かれ、それぞれ調査対象区画ごとに 2 回ずつ、計 8 方形区調査。

### 2. 調査結果

- ・全 8 区画で 44 種、一区画平均 20.5 種の植物を確認することができました。メマツヨイグサ、ヒメジオン、ミヤコザサ、ヤマドリゼンマイ、シシウド、オミナエシ、カワラナデシコ、ヒメシロネ、ヤマカモジグサ、ツルカミカワスゲ、スズサイコ、ノハラアザミ、ヨモギ、アケビ、ズミ、ミヤマザクラ、ヤマブドウ…などなど、知っている植物から、全く聞いたことのないものまで、様々な種がありました。

### 3. 感想等

- ・植物に関する知識が足りず、種を同定することがとても難しかった。